

●活動報告

学生ボランティアも増え、盛況のうちに幕

第23回「青少年のための科学の祭典 2014 全国大会」開催

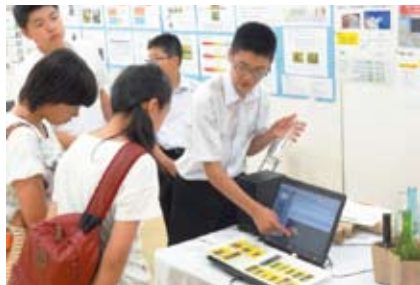
7月26日(土)、27日(日)の2日間、科学技術館の1階催事場を会場に、第23回「青少年のための科学の祭典 2014 全国大会」が開催されました。全国から実験名人たちの個人出展、各界の団体出展、日本学生科学賞研究発表、エネルギー教育事業分野の出展など合計74の出展企画が集まり、会場は多彩な実験・工作やショーを楽しむ来場者で賑わっていました。



【実験工作に励む参加者】「ファラデーモーターをつくらう!」ブースで見事完成!

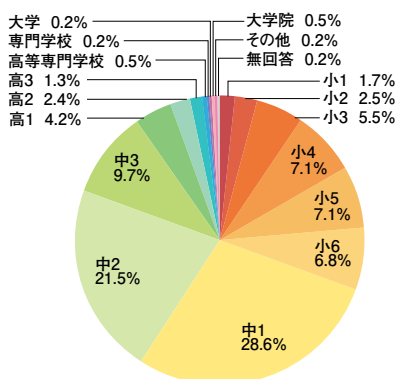


【ようこそ! 科学の祭典へ】朝早くから大勢の親子連れや学生が来館し、開場とともに目当てのブースへ



【日本学生科学賞受賞者の研究展示も】受賞校の中高生たちが丁寧に解説してくれた。秋田県出羽中学では液体の“トクトク音”を研究

来場者の子供の年代別内訳



●さまざまな分野の方々の協力で実現した祭典

「青少年のための科学の祭典」全国大会は、今年も「子どもゆめ基金」の助成を受け、中外製薬をはじめとする企業や団体からも協賛をいただき開催しました。また、出展された企業や団体からは運営協力金、実験解説集の広告掲載のご支援も受けました。運営面では、今年も大宮高等学校や近隣の高等学校の学生の皆さんに、出展者の補助スタッフ・ボランティアとして協力していただき、今回初めて大妻女子大学の学生の皆さんにも事務局のボランティアとして協力していただきました。遠方から参加して下さった、全国各地を代表する実験名人の個人出展者の方々には、得意の実験・工作を披露していただきました。今年は、ボランティア協力も増え、会場では、親子連れや学生ら全世代が実験工作に参加し、楽しむ姿が見られました。

●1万4000人が来場、次年度も新たなチャレンジへ

今年の出展規模は、個人出展36、企業や団体、大学など団体出展28、日本学生科学賞研究発表7校、エネルギー教育事業3、合計74の出展企画数となりました。

来場者数は、2日間合わせて13,655人でした。年代別では、子供の全参加者のうち、中学生が約6割と最も多くを占め、小学生は約3割(小学3年~6年:21%、小学1年~3年:9.7%)、高校生以上は9%でした。

個人出展、団体出展、日本学生科学賞からの出展、ボランティアの皆様のご協力に感謝するとともに、実行委員の皆様のご協力にお礼を申し上げます。次年度に向けて、企業・団体の皆様のさらなるご協力とご支援をお願いするとともに、新しい内容の個人出展・団体出展についてもご検討をお願いいたします。 <人財育成部>

<出展協力企業・団体、ボランティア協力校一覧>

(独)日本原子力研究開発機構、(一財)電力中央研究所、(一社)電池工業会、(一社)日本風力エネルギー学会、(株)リコーCSRグループ、日本IBM(株)社会貢献/ボランティア・チーム、(一社)日本アマチュア無線連盟東京支部、電機・電子・情報通信産業経営者連盟、(株)オーディオテクニカ、(一社)日本鉄鋼連盟、(一社)日本原子力学会関東・甲越支部、(独)科学技術振興機構、(NPO)くらしとバイオプラザ21、帝京大学理工学部、川崎医科大学、川崎重工業(株)、(株)ニッピ、日本電子(株)、愛知工業大学、セミの抜け殻しらべ市民ネット、クワガタムシ観察・雑木林探検隊、旭硝子(株)、(公財)東レ科学振興会、宇都宮市立河内中学校、香川大学教育学部附属坂出中学校、江戸っ子1号プロジェクト、新日本電工(株)、(株)ルネサスソリューションズ、鹿児島県日置市立伊集院北中学校、秋田県由利本荘市立出羽中学校、金沢大学人間社会学域学校教育類附属中学校、南山中学校男子部、兵庫県神戸市立北神戸中学校、駒場東邦高等学校、埼玉県立大宮高等学校、秋草学園高等学校、千葉県立東葛飾高等学校、大妻女子大学、(公財)日本科学技術振興財団情報システム部